

前回審査会（令和元年 5 月 10 日）における指摘事項及び都市計画決定権者の見解

番号	指 摘 事 項	都 市 計 画 決 定 権 者 の 見 解
騒音及び超低周波音		
1	<p>ごみ収集車両が集中したときにどこの交差点で渋滞するかについては、走行方向によっても異なるため、特に右折の箇所など細かい点も見て対応してもらいたい。</p>	<p>事業実施区域近傍の廃棄物等運搬車両の走行ルート及び交差点の状況は参考資料①のとおりです。</p> <p>知多市の廃棄物等運搬車両の走行ルート及び台数に変更はない計画のため、新たに渋滞を発生させることはないと考えています。</p> <p>また、東海市の廃棄物等運搬車両は新たに事業実施区域に搬出入することになりますが、国道 155 号・247 号の車両専用区間を経由するため、朝倉インター高架橋上の交差点を走行することとなり、特に右折を必要とするのは、往路において、国道 155 号・247 号を南下して朝倉インターで流出し、高架橋上の交差点で右折する箇所となります。</p> <p>しかしながら、当該交差点が混雑する時間帯は、国道 155 号・247 号と同様に（準備書資料編 P65 参照）7 時台、17 時台及び 18 時台と想定しています。廃棄物等運搬車両が特に多くなると想定される時間帯は、9 時台、10 時台、14 時台（約 120 台/時、準備書 P429 及び P430 参照）であり、混雑する時間帯と重なりません。</p> <p>（参考資料①参照）</p>
地下水の状況及び地下水質		
2	<p>地下水について、ふっ素とほう素が環境基準値を超過しており、これは海域に埋立地であることから海水の影響を受けていることが考えられるとしているが、この推測に妥当性があるのか、周辺の地下水の調査結果等を確認してもらいたい。</p>	<p>愛知県が公表している公共用水域及び地下水の水質調査結果については、平成 25～29 年度の東海市、知多市分を確認したところ、海域に近接した埋立地における地下水の調査結果はありませんでした。</p> <p>しかし、事業実施区域の地下水については、次の理由から海水による影響を受けているものと考えています。</p> <p>① 水位が数 c m～数 10 c m の幅で、1 日に 2 回ずつ上下を繰り返しており、周囲の海域の潮位の変化の影響をある程度受けているものと考えられること。</p> <p>② 電気伝導率が最大で 280mS/m と、海水 4,500mS/m ほど高い値ではないが、淡水 11m</p>

番号	指 摘 事 項	都 市 計 画 決 定 権 者 の 見 解
		<p>S/mと比較して高い値を示していること。</p> <p>一方、参考資料②で示すとおり、ふっ素については一般的な海水における濃度が1.5mg/L程度であるところ、事業実施区域の地点1-7では年平均値が2.45mg/Lと高い値が確認されていること、及び地歴調査の結果においてもふっ素の使用履歴が確認されなかったことから、埋立において使用された名古屋港の浚渫土による影響もあることが考えられます。</p> <p>(参考資料②参照)</p>
動物		
3	<p>希少種の位置情報に関する内容であるため、非公開</p>	
4		
生態系		
5	<p>方法書の知事意見に対する見解として、「知多半島の生態系ネットワークの形成に配慮して事業を進める」とあるが、このことと、生態系の注目種の選定との関連性を明記するべきである。</p>	<p>準備書において、調査地域の生態系を特徴づける種として選定した生態系の注目種は、相対的に確認例数（個体数、確認場所）が多く、生態に関する知見が十分にあるものを対象種としておりますが、イタチ属の一種、ヒヨドリ、ニホンカナヘビ等については、知多半島生態系ネットワーク協議会のグリーンベルトの取組において確認されており、このことも踏まえて注目種として選定しました。</p>
6	<p>イタチを上位性の注目種に選定している一方、捕食対象であるアカネズミが典型性の注目種に選定されていない理由をより丁寧に整理</p>	<p>生態系の典型性の注目種の選定基準は、準備書P605の表8.11.3に記載のとおり、対象地域の生態系の中で生物間の相互作用や生態系の機能に重要な役割を担うような種・群集を対象として、動物では、個体数が多い種や個体重が大きい種を選定することとしています。</p> <p>上位性の注目種としたイタチ属の一種は、ネズミ等の哺乳類以外に鳥類も捕食することがあ</p>

番号	指 摘 事 項	都 市 計 画 決 定 権 者 の 見 解
	<p>すべきである。</p>	<p>りますので、確認数が少ないアカネズミ（2個体）よりも、確認数の多いヒヨドリ（304個体）及びスズメ（168個体）を典型性の注目種として選定することが、調査地域の生態系を評価する上で、より適切であると考えて選定しました。</p> <p>（準備書 P604「食物網想定図」、P605「調査地域を特徴づける生態系における注目種の観点」P. 606～607「注目種の検討結果」参照）</p>
7	<p>昆虫類の典型性種としてキタキチョウを選定しているが、資料編にはこれ以外にも様々な種が確認されているため、選定した理由をより丁寧に整理すべきである。</p>	<p>昆虫類の典型性の注目種として選定している種は、調査地域の生態系の多様性を特徴づける種であって、相対的に確認例数（個体数、確認場所）が多く、生態に関する知見が十分にあるものを対象種としています。</p> <p>キタキチョウは、昆虫類調査の全ての調査季で、調査地域内の多くの地点で比較的多数確認されており、草地及び樹林の両方を生息環境としていることから、事業実施区域及びその周辺に広く分布し、生態的な特性も把握しやすいため選定しました。</p> <p>（準備書 P605「調査地域を特徴づける生態系における注目種の観点」、P607「注目種の検討結果」、資料編 P251～262「資料 6-1 昆虫類の確認種一覧」参照）</p>

廃棄物等運搬車両の走行ルート

【西知多クリーンセンターへの搬入車両】

搬入対象物：知多市の一般廃棄物 + 東海市の一般廃棄物



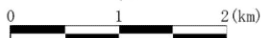
国土地理院発行の5万分の1地形図を基に作成

凡例

- : 事業実施区域
- : 市町村境界
- : 廃棄物等運搬車両の主な走行ルート（西知多クリーンセンター供用時）



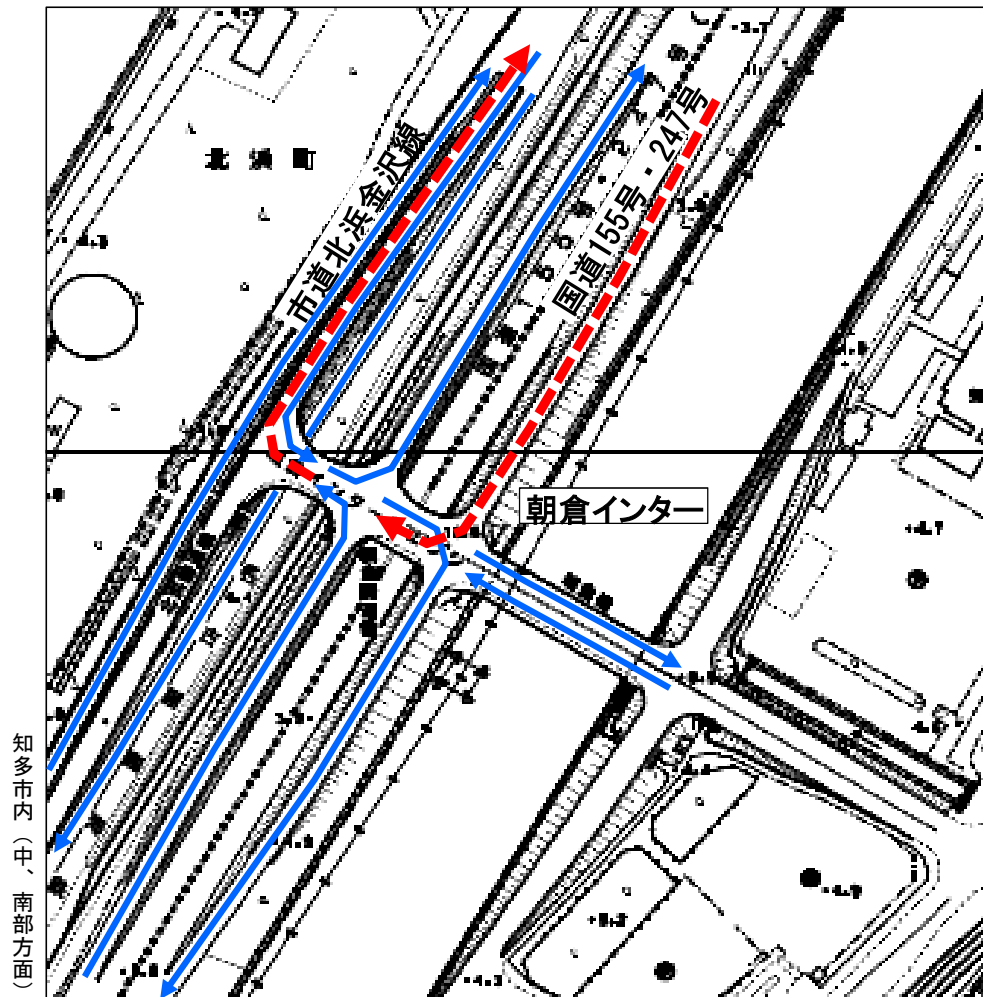
1:50,000



東海市からの廃棄物等運搬車両は、原則として国道155号・247号の車両専用区間を経由し、知多市の市街地のルートを使用しない予定である。

朝倉インター交差点における廃棄物等運搬車両の走行方向

事業実施区域方面 東海市方面



知多市内（中、南部方面）

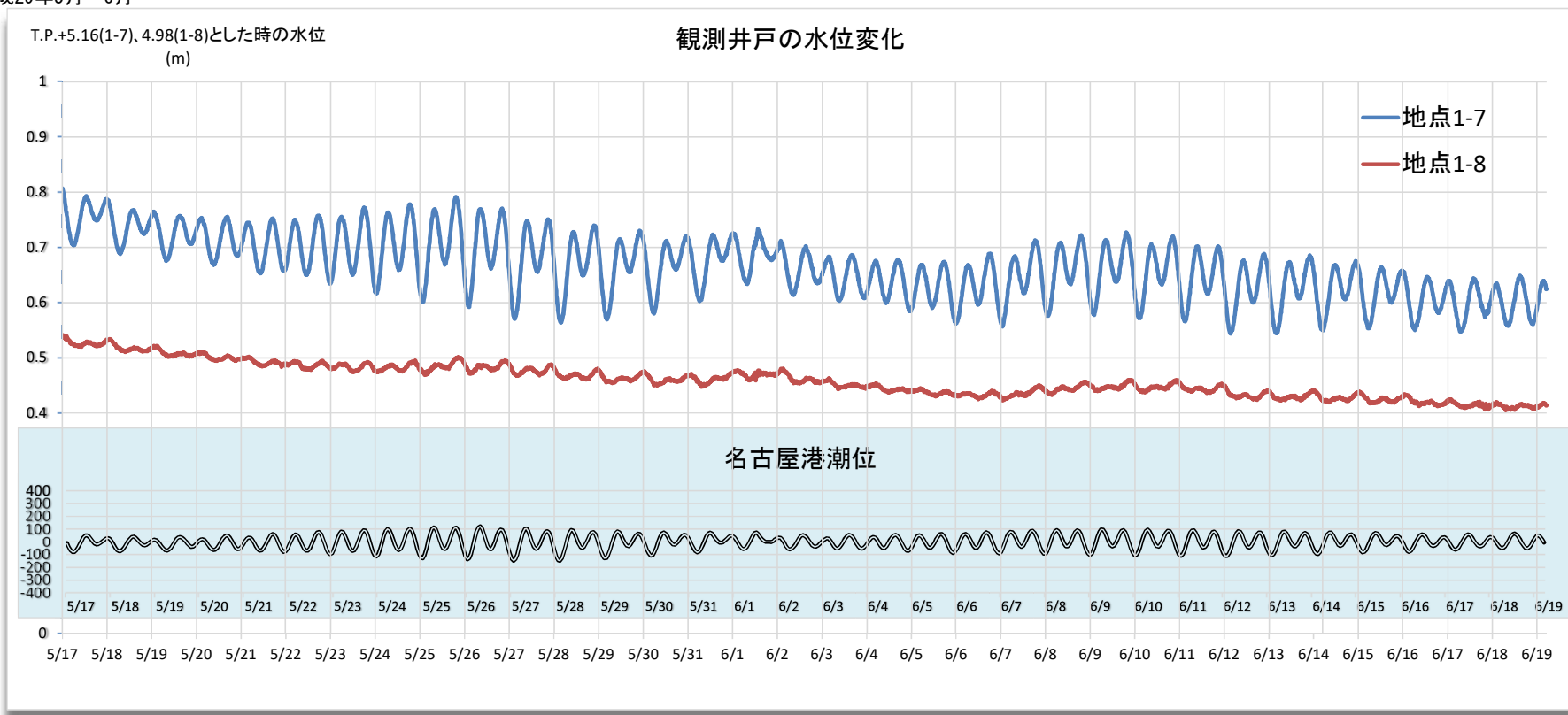
知多市内（北、東、中部方面）

知多市内（南部方面）

- : 東海市の廃棄物等運搬車両（往路）が右折するルート
- : 上記以外の廃棄物運搬車両等走行ルート

地下水位と潮位の関係性

平成29年5月～6月



- ・事業実施区域の地下水位は、数cm～数10cmの幅で、1日に2回ずつ上下を繰り返す。
- ・名古屋港潮位は、約1～2.5mの幅で、1日に2回ずつ干満を繰り返す。
- ・それぞれ1日2回ずつ上下することから、事業実施区域の地下水位は、名古屋港の潮位の変化の影響を受けているものと考えられる。

事業実施区域の地下水調査結果

		春季	夏季	秋季	冬季	年平均	環境基準値
地点1-7	ふっ素 (mg/L)	2.3	2.4	2.5	2.6	2.45	0.8
	ほう素 (mg/L)	0.8	0.8	0.6	0.8	0.75	1
	電気伝導率 (ms/m) 25°C	124	123	109	125	120.25	
	電気伝導率 (ms/m) 15°C	96.72	95.94	85.02	97.5	93.80	
地点1-8	ふっ素 (mg/L)	0.82	0.78	0.71	1	0.828	0.8
	ほう素 (mg/L)	1.1	1.1	0.6	1	0.95	1
	電気伝導率 (ms/m) 25°C	280	250	196	255	245.25	
	電気伝導率 (ms/m) 15°C	218.4	195	152.88	198.9	191.30	

(環境省・国交省資料より)		海水	河川水
ふっ素 (mg/L)		1.5	0
ほう素 (mg/L)		4.5	0
電気伝導率 (ms/m) 25°C		4,500~5,100	11
電気伝導率 (ms/m) 15°C		3,500~4,000	8.6

(環境省資料 海水のみの影響判断基準)		
ふっ素	…電気伝導率	2,300 (ms/m) 15°C
ほう素	…電気伝導率	1,000 (ms/m) 15°C